

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価基準(2019年改定、名古屋市の建築物環境性能評価マニュアル) (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市区庄内通5丁目Ⅱ 新築工事	階数	地上14階	
建設地	名古屋市西区庄内通五丁目8番1の一部	構造	RC造	
用途地域	商業地域・第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	115 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価	
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年6月9日	
敷地面積	854 m ²	作成者	2025年6月10日	
建築面積	484 m ²	確認日		
延床面積	2,896 m ²	確認者		

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.0 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 BEE = 環境品質 Q / 環境負荷 L このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 62% ③上記+②以外のオンサイト手法 62% ④上記+オフサイト手法 62% (kg-CO₂/年・m²) 46	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 LED照明等、エネルギー消費性能の良い機器を積極的に採用し、省エネルギー性に配慮しました。敷地内に極力植栽を設け、環境保全にも配慮しました。		その他
Q1 室内環境 冷暖房負荷の軽減をできるよう、住戸サッシはペアガラスを採用し、快適な室内環境に配慮しました。	Q2 サービス性能 梁・設備下がりのない部分について天井高を2.5m以上確保し、空間にゆとりをもたせました。	Q3 室外環境（敷地内） 敷地内に極力植栽を設けることで、環境保全に配慮しました。大通り沿いに高層棟、住宅の多い東側に低層棟を配することで、周辺の環境との調和も取れるよう設計しました。
LR1 エネルギー LED照明等、エネルギー消費性能の良い機器を極力採用しました。	LR2 資源・マテリアル 潜熱回収型ガス瞬間式給湯器を採用し、熱効率の良いものとししました。	LR3 敷地外環境 広告照明などは行っていません。また敷地内に駐輪・駐車場を適切な量設置しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市西区庄内通5丁目Ⅱ 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。